

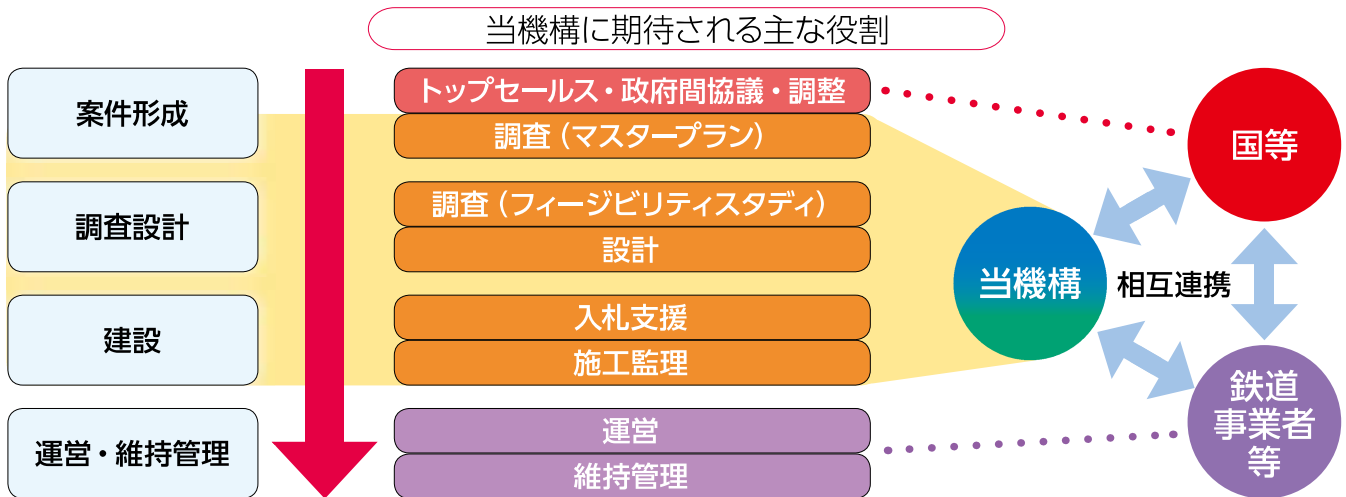
国際業務

● 海外高速鉄道プロジェクトへの参画

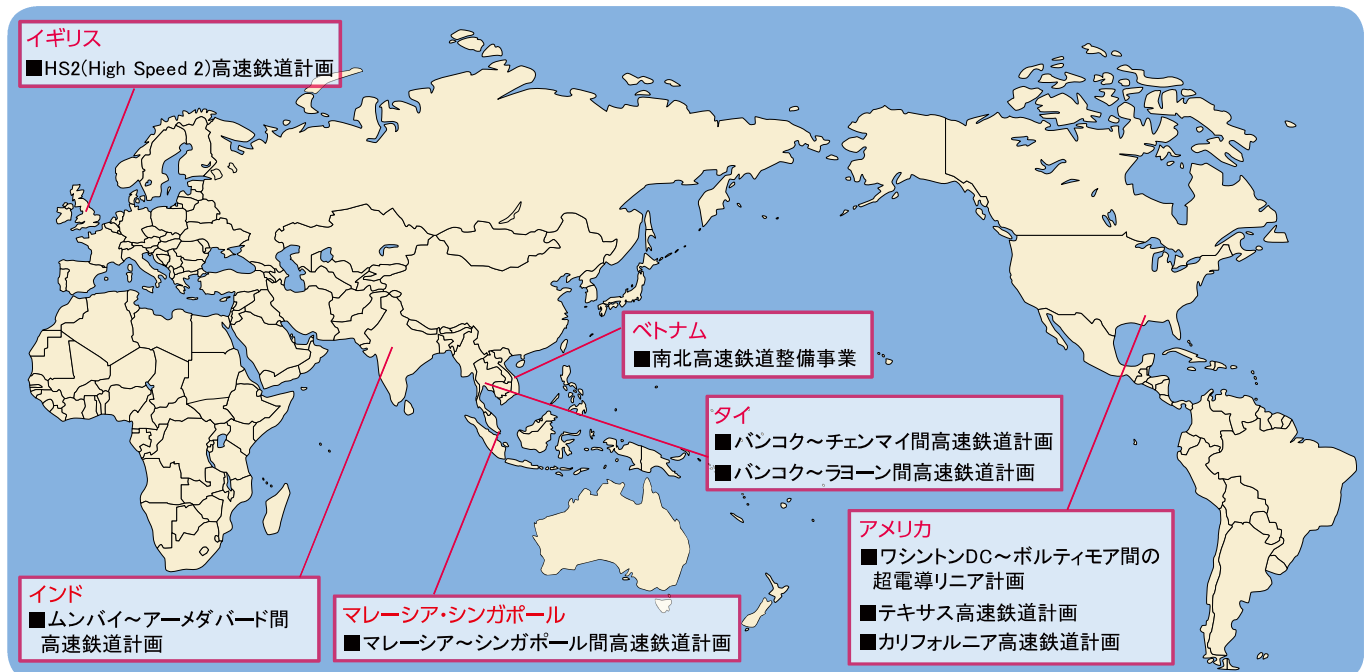
近年、地球環境問題への意識の高まりや、アジアをはじめとした新興国の経済成長に伴う都市間及び都市内の交通需要の増大により、環境負荷が小さく大量輸送に優れた交通機関として、鉄道への期待が増えています。現在、世界各地で多くの鉄道プロジェクトが計画・調査されており、鉄道市場は2021年には約24兆円規模へと拡大することが見込まれています。

しかしながら、高速鉄道の建設に関しては、民間事業者は調査から完成までの土木、建築、軌道、電気、機械工事の一貫した遂行能力と部門間の調整能力が十分に備わっていません。そこで、海外の高速鉄道プロジェクトに関して、整備新幹線の建設を一貫して担ってきた当機構の積極的な役割が期待され、2018年8月に「海外社会資本事業への我が国事業者の参入の促進に関する法律」が施行されました。当機構におきましては、同法律に基づき、海外高速鉄道プロジェクトに参画していくことになりました。

当機構はこれまで新幹線をはじめとした鉄道建設を通じて培われてきたノウハウ・知見を活かし、海外においても、明日を担う交通ネットワークづくりに貢献してまいります。



主な高速鉄道プロジェクト



「国土交通省インフラシステム海外展開行動計画2018」(平成30年3月)より高速鉄道案件を抜粋

● 海外技術協力

当機構では、国土交通省等の要請に基づき、1964年から、多くの鉄道専門家の派遣を通じて、海外の鉄道整備に貢献してまいりました。これまで70カ国（地域）延べ2000人以上の専門家を派遣してきています。一方で、諸外国からの研修員をはじめとした視察団の受入も行っており、これまで100カ国（地域）4000人以上の研修員等を受け入れており、日本の高い鉄道技術を紹介してまいりました。

海外技術協力の具体的な取組み

台湾高速鉄道プロジェクト

台湾高速鉄道は日本の新幹線システムが初めて海外に輸出されたもので、2006年に開業しました。当機構はプロジェクト計画段階の1988年から、職員を派遣し協力を行ってきました。

具体的な協力として、調査段階における事業可能性調査への職員の参画から始まり、入札段階における提案書に対して技術的見地からの助言・精査、新幹線システムの導入決定以降は、システムの根幹である軌道や電気系統の職員を長期専門家として多数派遣し、建設段階及び開業前の総合試験での技術的支援も行いました。

同プロジェクトは、日本の新幹線システムが輸出された成功事例であるとともに、当機構としても国内で培われた鉄道建設の総合的な技術・ノウハウを計画段階から開業まで活かした成功事例として考えております。



台湾高速鉄道建設（軌道・電気）への技術協力（台湾）

インド高速鉄道プロジェクト

インド高速鉄道ムンバイ～アーメダバード間については、2015年12月の日印首脳会談に際し、両国政府間で新幹線システム導入に関する覚書が締結され、同路線で日本の新幹線が導入されることになりました。

当機構は、プロジェクトの調査段階における事業可能性調査から、鉄道の専門家を派遣し積極的に協力しております。同路線の開業に向けてプロジェクト進行中の現在では、事業主体であるインド高速鉄道公社へ鉄道に関する総合的なアドバイザーとして当機構の職員を派遣しております。

他方で、国内ではインドからの研修員を受け入れ、新幹線建設現場を案内し、建設における安全性についても理解を深めてもらっています。



インド高速鉄道現地調査（インド）

スウェーデン技術交流

スウェーデン国内で高速鉄道への関心が高まっており、スウェーデン産業省と国土交通省との間で、鉄道分野における協力に関する覚書が締結されました。当機構は、同覚書に基づき、2013年からスウェーデン運輸庁と高速鉄道に関して技術交流を行っております。

技術交流としては、高速鉄道に関するワーキンググループへの参加や、各種セミナーで機構職員が講師を務めるなど、日本の鉄道技術をスウェーデン側に紹介すると共に、スウェーデンの鉄道技術を学んでおります。

また、スウェーデンから研修員を受け入れ、新幹線建設現場を案内するなどして、交流を深めております。



鉄道分野における技術交流（スウェーデン）